



鳥取県と看護大・短大 との連携協議会の初会合

理事・事務局長 高木 新一

平成27年9月7日（月）看護大学会議室において、鳥取県と鳥取看護大学・鳥取短期大学との第1回連携協議会が開催されました。この協議会は、鳥取県と本法人が連携を深め地域の課題を共に考え解決することを目的として設定されたものです。

最初に平井知事から本法人に対する熱い期待が寄せられ、山田理事長は「地域に貢献する大学として期待に応えたい」と挨拶しました。その後、意見交換会に入り「CCRCモデルの推進」「地域医

療推進体制の充実」「子育て支援の体制の強化」「修学支援金の充実」などについて、活発な意見が交され、さらに「食のみやこ鳥取と食生活を通じた健康づくり」の報告が行なわれました。

県からは元気づくり総本部、地域振興部、福祉保健部、子育て王国推進局から幹部の方が出席され、本法人からは理事6名が出席し、建設的な意見交換ができました。

今後継続して県との連携協議を続け、地域になくてはならない大学として邁進していく所存です。

倉吉市と学校法人藤田学院との連携協議会

11月24日（火）、倉吉市との包括協定に基づく連携協議会が開催されました。

倉吉市とは、従来より案件ごとに協議を頻繁に行なっていますが、この日は、市から地方創生関連で「倉吉市の総合戦略について」の説明がありました。この戦略では、大学との連携の必要性が強調され、市からは「空き家を活用し

た学生向けシェアハウス導入事業」の提案がありました。両大学からは、「まちの保健室」、「公開講座」の計画を説明しました。

特に「まちの保健室」は市民の方に大変好評で、地域を広げて欲しいとの声が多くあるとうかがいました。そのためには、実施体制を整備することなどを協議しました。

地域交流・地域連携



とっとりイノベーションファシリティネットワーク協定締結

9月10日(木)に鳥取大学において、鳥取大学、鳥取県、米子工業高等専門学校、公立鳥取環境大学、鳥取短期大学、鳥取看護大学、鳥取県産業技術センター並びに鳥取県建設技術センターの8機関と「とっとりイノベーションファシリティネットワークに関する協定書」の調印式が行われました。

また、11月17日(火)には、ネットワークが果たすべき役割について意見交換の場を設けることを目的としたキックオフシンポジウムが開催されました。このネットワークは鳥

取大学が中心となり、各機関が保有するファシリティ(施設・設備)を相互に利用して、県内企業及び農林水産業等、地域資源を活用した研究が広く推進されることにより、地域産業の活性化へとつなげ、地域社会に貢献することを目的としています。看護大・短大からも教員が運営会議の委員として参加しています。

全国的に見てもこのようなネットワークはほとんどなく、今後の成果が期待されます。鳥取県のイノベーションのために両大学も貢献したいと考えています。



県議会「学生議会」で舌戦！

鳥取県内の大学生、短大生、高専生が議員となり、知事や県幹部に質問や意見を述べる「学生議会」が、10月20日(火)に鳥取県議会議場で開かれました。

鳥取看護大学1年の社会人学生は若年者への労働者教育の必要性を述べるとともに看護師の離職率の高さを挙げ、その対策を求めました。また、同じく1年生の女子学生も看護師の離職対策について質問するとともに、今後さらに需要が高まる訪問看護師の新卒・新人の育成策について質問しました。

鳥取短期大学生活学科情報・経営専攻2年生の男子学生は、鳥取駅前商店街でのフィールドワークを基に、空き店舗を活用した中心市街地活性化策について質問しました。また、国際文化交流学科2年生の男子学生は、行政について若者に関心を持ってもらうためにはLINEやツイッターの活用が必要であると質問し、「来年度に予算化して検討したい」という答弁が担当部長から述べられました。4人の堂々とした態度と質問内容に、傍聴の県議会議員から称賛の声が聞かれました。

10月27日(火)、鳥取看護大学学生赤十字奉仕団の結団式を行いました。

結団式には、日本赤十字社鳥取県支部 平井伸治支部長、鳥取看護大学 近田敬子学長をはじめとする関係者、鳥取看護大学学生赤十字奉仕団新団員14名が出席しました。結団式では平井支部長から「自身も青年赤十字奉仕団に籍をおき、その経験は今に繋がっている。」、近田学長から「本学の教育理念と赤十字の理念は根本では繋がっている。」と、それぞれコメントをいただきました。

鳥取県内の青年奉仕団は、鳥取大学を中心とする東部と西部の団に続き、看護大学で三団となりました。二団の間に位置する当団は、県内での活躍の場が広がるものと期待されています。結団後は「ミュージックフェスティバル」、「海外助け合い募金」など多くの奉仕活動を通して、学生たちが地域に貢献し、人として成長することを願っています。

鳥取看護大学学生赤十字奉仕団が誕生しました！



倉吉市中心市街地活性化協議会メンバーと学生との意見交換会

11月25日（水）、中心市街地活性化倉吉駅周辺エリアワークショップ「鳥取短期大学生・鳥取看護大学生と語らいや」が短大で開催されました。

これは、「倉吉駅周辺エリア」での学生の実態を把握し、周辺エリアの活性化に必要な取り組みや課題等を検討する目的で計画されたものです。

当日は、短大生5名・看護大生2名、協議会メンバーの方々10名が「駅北側の道路」「駅周辺の生活環境」「普段の生活」などについて意見交換をしました。学生は、この会を通し、改めて地域の行なっている「まちづくり」を知る良い機会になりました。

地域が発展し、地域の皆様に貢献できるよう、今後も大学と地域が協力して課題解決に取り組んで行きたいと思ひます。



“楽しもう♪絵本の世界”



附属図書館（本館）を会場に、今年度の図書館事業として“楽しもう♪絵本の世界”を4回に渡って開催しました。毎回絵本の読み聞かせの後にワークショップを実施しています。

9月は絵本カバーで作るエコバッグ、10月の大学祭の期間中は、ハロウィンに合わせた折り紙とクイズ、11月にはモールでかわいいモコモコ作り。いずれも親子で楽しんでいただきました。

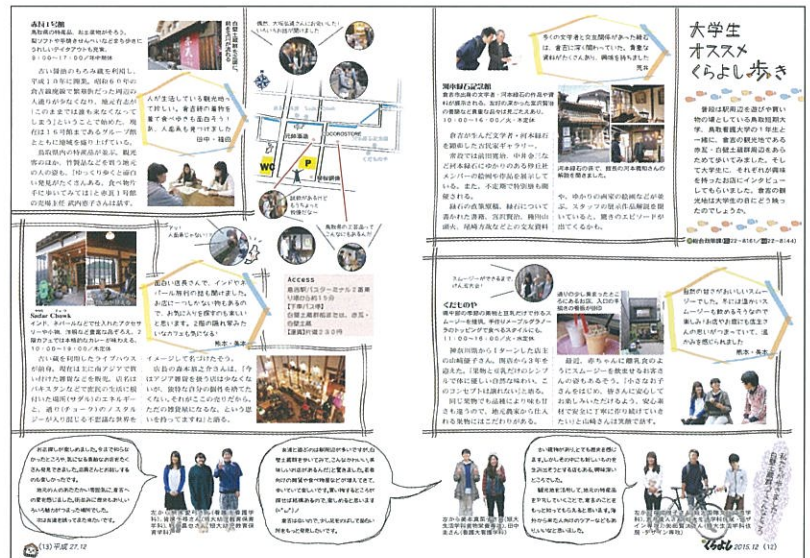
地域に開かれた図書館として、来年度も新たな企画を予定しています。ぜひ多くの方々に参加していただきたいと思います。

市報「くらし」特集記事

市報「くらし」12月号に鳥取看護大学生2名と鳥取短期大学生6名が取材・企画した「大学生オススメくらし歩き」が掲載されました。

学生たちは、倉吉の観光地である赤瓦・白壁土蔵群周辺で興味を持ったお店をインタビューして回り、学生目線での感想を素直に記事にしました。

夏から取組んだこの企画の詳細は、倉吉市のホームページ上にある動画「市報くらし拾い読み」でご覧いただけます。



教員紹介



鳥取短期大学
生活学科 情報・経営専攻
助教 うえき ひろし
植木 洋

- 出身：京都府
- 専門分野：社会政策
- 学位：修士（経済学）京都大学
- 最終学歴：京都大学大学院経済学研究科

今年度から鳥取短期大学に赴任しました。生まれてこのかた京都で過ごしてきましたが、今回初めて彼の地を離れ鳥取にお世話になることになりました。

情報・経営専攻では経済学や経営学をはじめとしたビジネス系科目を、教養科目では国際関係論を担当しています。専門分野は社会政策ですが、なかでも外国人労働者や非正規雇用に関する雇用問題についてフィールドワークをベースにしながら研究を進めてきました。こうした分野に加え、本学への赴任を機に「地方消滅」「地域再生」といった地域に関わる問題にも関心が広がっており、地域経済や地域の雇用問題なども今後の研究対象にしたいと考えています。

サント・トーマス大学看護学部より来学

12月7日から9日、鳥取看護大学にとって初の海外からのお客様として、フィリピンのマニラにあるサント・トーマス大学看護学部のコルテス国際交流委員長とナビダット委員をお迎えしました。サント・トーマス大学（以下UST）は、1611年スペイン統治下に開学したアジア最古の私立大学で、404年前の歴史的建造物が美しく、ローマ教皇が何度も訪問されています。看護学部だけで1学年400人の学生を抱え、看護師国家試験合格率は国内トップクラスで、大学全体で4万人以上の学生が学んでいます。鳥取看護大学の荒川教授は、前任校で毎年看護学生をマニラに引率し、看護ケアを英語で実践する実習を行うとともに、USTからも実習を受け入れた実績があります。更に2014年度から科研費による研究をUSTと共同で行っていることから、その研究の推進のために今回の来学が叶いました。

初日は、看護大学内を見学され、「基盤看護技術」の演習で洗髪をご覧になり、学生の初々しい懸命な姿と最新鋭設備に感心されていました。



最終日は、講演会を学生向けに開催しました。ナビダット委員の英語による講演は、植物抽出物の糖尿病への効果に関する研究報告で、学生は授業で習得した医学用語に、一生懸命聴き入りました。

またコルテス委員長による、大規模で迫力のあるUST紹介ビデオ上映には羨望の声が聴かれました。学生はこの講演の感想を「先生方への手紙」として英語で記述し、後日先生にお渡ししました。「心のこもった、温かい手紙で感激した。」と返事が届きました。



教職員も歓迎会や送別会などで、積極的に先生方と会話し、今後の交流に期待が高まりました。先生方からは、「鳥取看護大学の歴史を築くパイオニアである皆さんには、将来のために是非頑張ってください」と励ましていただくと共に、是非USTの学生を鳥取看護大学に派遣したいとの意向が示されました。今回のご訪問は、グローバル社会の中で看護師となる学生にとって貴重な経験であり、今後の看護大学の国際交流の道筋が見える良い機会となりました。



地域交流センターをご利用下さい

鳥取看護大学・鳥取短期大学では、個人・団体による大学見学会、講演会講師の依頼、大学の施設利用や教員の専門分野に関するご相談などに随時対応しています。

詳しくは地域交流センター（担当：柴田・中島）までお問い合わせ下さい。

<発行> 鳥取看護大学・鳥取短期大学地域交流センター 〒682-8555 鳥取県倉吉市福庭854
TEL&FAX:0858-26-9138(直通) E-mail:chiiki@ns.cygnus.ac.jp

<印刷> 有限会社 矢積印刷 倉吉市宮川町2-36